

となく同じ年であるという親しみをもって、  
るようですので、保育室が隣同志であつたな  
ら、もつと交流もうまくいくようになり、生  
年月日による組編成の短所もおぎなえるので  
はないかと思つております。

(お茶の水大附属幼稚園)

## 組編成と担任制の新しい

試み

(協力担任制)

宮地 忠雄

### 一、はしがき

組編成とか担任とかといったことは、多く  
の場合、園長や校長の関心を持つことであり  
先生方は、形成された枠内で、その経営や運  
営を研究するという傾向が強い。

園長や校長は、組編成や担任制については  
人事の面としては種々工夫をこらすが、その  
形成面については、前から行われている方法  
を踏しゅうして、みだりにその形式を変える

ようなことをしないというのが普通のような  
ある。

であるから、環境の構成とか、単元の展開  
とかといったことについては、多方面に渉る  
実験データが公にされているが、組編成と  
か担任制といった面については、比較的新し  
い実験が少いようである。

私の学校の実験は、昨年度から着手され、  
今年度さらに、その計画を前進させたもので  
あるが、まだ的確にその評価をしていないの  
で、実験結果を発表するという段階にまで達  
していない。

ここには、どのような方法で新しい試みを  
しているかの一端を述べてみることにする。

### 二、一般の組編成と担任のし方

#### ◇組編成のし方は、常識的に考えて

1、固定制—一年で編成したものを六年卒業  
するまで変えない。

2、組がえ制—学年進行にしたがつて組がえ  
をするもので、

\* 一年毎に

\* 二年毎に—低、中、高の学年の変りめに組  
がえをするもの。

\* 三年から四年に進むとき、あるいは四年か  
ら五年に進むときに組がえをするもの。

等、種々あるが、二年毎に組がえをするが  
多いようである。

の二つに区別され、1、より一般に2、の  
方が多く採用されている。

その理由は、

\* 交友の範囲を広くし、だれとでも親しめる  
ようにする。

\* 学級間における不当な競争や対立意識を除  
く。(学級固定制では、ともすればこの傾  
向が強くなる)

等が考えられる。

#### ◇担任のし方も、まず組編成と同じように

1、持ちあがり制—一年から六年まで一人の  
担任が持ちあがっていくもの。

#### 2、交替制

\* 一年毎に

\* 二年毎に—低、中、高の学年の変りめに、

\* 三年から四年に進むとき、あるいは、四年  
から五年、または、五年から六年に進むと  
き。

等があるが、二年毎に担任替をするのが多  
いようである。

の二つが考えられ、これも、1、より2、が多く採用され、その中でも、二年毎に担任をかえるという方法が多いようである。

その理由は、

\* 担任固定制では、一人の教師の長期間に渉る人格的影響が大きすぎる。―その教師の長所、短所、興味の傾向、研究学課や特技等が児童に強く影響を与える。

また、児童と一教師との過度の結びつきは、他教師との関係に疎外を生じ、教育の全体計画に支障をきたす。―児童が受持の先生のいうことは聞くが、他の先生のいうことを聞かなくなる。

\* 一年毎の交替では、教師と児童との結びつきは浅く、児童の学校生活は不安定。また教師の児童理解も不徹底。

\* 低、中、高で担任をおさえると、低学年担任(中、高も同じ)は、その学年の指導について経験と研究が深まる。

等々が考えられる。

以上の組編成と、担任制の組合せによって実際には幾多のタイプが生まれ、多くの学校はそのいずれかに属している形である。

### 三、新しい試み―協力担任制―

私の学校で新しく試みている方法は、以上に述べたどのタイプにも属さないものである。それは、協力担任制とも称せられるものである。

私の学校は、学年二学級編成男女共学である。そうして、学級担任のほか、教科担任(専科の教師)が多数関係することになっている。この枠の中で考えだされた協力担任制と組編成の仕方の概要は、つぎの通りである。―第一学年(昭和二十九年入学)を中心に述べる。

#### ◇担任のし方

1、一人の担任を一学級に固定しないで、男女二人の教師で一学年二学級の担任とする。

\* 学級担任制ではなく、男女二人の学年担任制

2、学級事務は二人ですべて共同負担。生活指導の面も二人共同してあたる。しかし、朝の話しあい、給食指導、下校前の話しあい等は、一応、一月交替で学級を分担してその指導に当る。―入学当初から九月の

終りまでは、児童の適応の状態を考慮して月毎の交替はしなかった。

3、保護者会。保護者面接等も二人で共同して運営する。

4、教科の担任のし方は、

\* 国語、社会―文科系担任(男)

\* 算数、理科―理科系担任(女)

二人の担任は、両学級の四教科を同時数を受持つ。

\* 音楽―専科教師、両学級へ同時数出る。

\* 体育―男、女二人の体育の専科教師、両学級へ同時数出る。そのほか受持の教師それぞれ一時間出る。

\* 図工―男、女二人の図工の専科教師、両学級へ同時数出る。

\* 一児童あたり指導教官数

担任二人(国語、社会、算数、理科)

専科教師五人(音楽一人、体育二人、図工二人)計七人、

ということになっている。担任教師二人を中心にして協力して指導に当たるといわけである。

5、原則として学年担任、教科担任は、協力して、六年まで継続して持ちあがり、その

指導に当る。

◇組編成のし方

1、学級は、二年級とも同数の男女共学。

2、第一学年は、十月第一月曜日をもって組の編成がえを行う。→入学当初は「あいうえお」順に並べ、一人おきに学級区分をし

た。十月には、身長順に並べ、一人おきに学級区分をした。

3、第二学年以降は、学年の変りめ毎に編成がえをする予定。→一年一回か、一年二回にするか、目下研究中

四、その評価

このような協力担任制を試みたねらいは、1、児童に固定学級や担任の意識を持たせないで、できるだけ、たくさんの友だちや教師に親しませるようにしたい。

2、行動範囲や、人間的つながりを広くして広い社会的視野を養いたい。

3、男、女の教師の影響を、児童にできるだけ同じように与えたい。

4、学級や担任の固定によって、ともしれば生じやすい学級間の不当な競争（児童、保護者、教師ともに）を、なくしたい。

5、同一学年の児童の発達を同じ条件で評価し、その成長、発達の過程をできるだけ客観的にとらえたい。

研究をはじめて、一年にもみたくないの、その成果をまだ適確におさえることができない。

十二月二十日、つぎのようなアンケートを

前略 現在のような学級編成のし方や担任のし方について御感想を左記によって御記入の上明二十一日（火）担任に、御提出ください。

十二月二十日

保護者 殿

◇記入の方法

イ、1、2のうちよいと思うものに○をつけてください（番号は）

ロ、理由は（例）を参考にして、どんなことでも御気づきのことを簡潔書にして書いてください。

ハ、理由を書きにくかつたら無理にお書きにならなくてもよいです。

ニ、氏名の記入は御自由

1、一年生の現在のやり方でよい 理由の例  
イ、行動範囲が広くなり、広い社会的視野を養うことができる。

その理由

ロ、たくさんの友だちと親しむことができる。

ハ、男、女の教師の影響を同じように受けることができる。

ニ、学級による不当な競争がおきない（児童、保護者、教師ともに）

2、上級生のように（むかしのように）学級も担任も固定していた方がよい。

理由の例

イ、教室やグループに早くなれ安定した気分が学校生活ができる。

ロ、友だちによく親しみまともやすい。

ハ、一人の教師の思うような経営ができる。

ニ、保護者会学級会等の会合がもちやすい

保護者に渡し、この新しいシステムに対する  
評価の資料としたが、

回答数 七五の中

可とするもの七一

否とするもの四

で、約九五%が、この方法を支持している  
ことがわかった。

保護者の述べた支持理由をのせる紙数がな  
いのは、残念であるが、私たちは、保護者の  
強い支持や、児童たちの喜びに満ちた学校生  
活に強い確信を得て、さらにこの研究を進め  
たいと思っている。

さいごに、この方法では、

1、担任教師の調和(教科、性格等)が得ら  
れないと問題が残る。

2、一人の教師が百人もの児童や保護者の指  
導に当らねばならなくなるので、肉体的に  
も、時間的にも、そうとう負担になる。

3、担任教師の一方が変ったとき(転任等)

新任の教師に対して児童や保護者がどのよ  
うな態度をとるか(一方に残った担任がい  
るので、どうしてもその方との結びつきが  
深くなるだろうと思われる)問題があり、  
その面から協力担任制にひびが入らないか

心配である。

等々問題があるが、それらについては、また  
別の機会に述べることにする。

(お茶の水大小学校)

## 自由保育を実施して

(組解体保育)

井上 季子

### 一、自由保育を実施するまで

「自由保育か一斉保育か」という問題につ  
いては、昭和二十七年度文部省主催近畿研究  
集会において、学習指導の改善に関連して取  
上げられた。近畿地区の出席者から、それぞ  
れの意見が続出し、理論的なそとわくだけは  
つかみ得たのであるが、これを各地の幼稚園  
において、実践してみることが一つの課題と  
して残されたのである。当時我が大阪市にお  
いては、すでに市立貫江田幼稚園が新しい試

みとして、自由保育の研究に乗り出し種々のデ  
ーターを出していられた。そこで私はこれを  
一つの資料として研究集会に自由保育を提唱  
してきたのである。

自由保育と一口にいつても、園の施設、設  
備、職員組織、幼児数、等により、その方法  
はいろいろである。自由保育形態のサンプ  
ルを出すことはきわめて困難であり、またそ  
うすることは保育をわざわざいさせる危険性が  
多い。大阪市は研究集会の直後保育形態の問  
題について度々研究集会をもった。そして長  
所短所を各園の状況とにらみ合せて討議し、  
教育目標に合致した保育活動を展開してい  
くように、努力したのである。

大阪市では貫江田幼稚園の他に、二、三の  
幼稚園が此の形態を取り入れ、多角度からそ  
の良否を研究してきたのである。多くの園は  
これを良しとしつつ、尙此の形態を取り得な  
い現状である。そこで前進への手段として自  
由保育の長所を織りこんだ一斉保育を試みて  
いる。

自由保育は理論的に考察して良いという事  
を二十九年度の保育学会において貫江田幼稚  
園長を始め、各方面の権威者のひとしく推奨